

時の動き

都知事選挙から見えてくるもの

新社会党東京都本部委員長

福田 光一

7月7日東京都知事選挙の投票が行われ、小池現職知事が三選した。私たちが応援した蓮舫候補は3位という結果となり、選挙の厳しさを改めて感じた。

今年2月から5月にかけて、立憲野党と市民団体による「都知事選挙候補者選定委員会」が、計5回開催され、その中で蓮舫さんが候補者として決定した。私たち新社会党東京都本部（以下、都本部）も初回からすべて参加している。

そもそも、約5年前になるが、都本部の呼びかけにより、東京都段階の立憲野党の意見交換会が定期的に進めら

れてきた。立憲民主党、日本共産党、社会民主党、緑の党グリーンズジャパン、生活者ネットに、私たち新社会党の6党が参加。当初は国民民主党も呼びかけていたが、自民党寄りに変質していった過程で呼びかけを止めた。れいわ新選組には呼びかけを続けているが、これまで参加はない。

こうした背景の中で、候補者選定委員会が開かれたものと認識しており、蓮舫候補擁立に立憲野党6党が大きく関与しているといっても過言ではない。そうした意味で、今回の敗北は今後の東京都段階の野党共闘にどう影響して

くるか不安が残る。

蓮舫さんが候補として決定された日、共産党の小池書記局長は「最高最強の候補だ」と述べ、他の参加者からも大きな期待を寄せられた。「蓮舫さんなら勝てる」言い換えれば、「蓮舫さんで勝てなければ誰が出ても勝てない」という空気だったかと思う。自民党への逆風が強い情勢の中で、自民党べつたりの現職都知事にも逆風が吹くだろうとの期待もあった。

候補が決まってからはバタバタとしていて、衆議院小選挙区ごとに地区選対がつくられ、事前ピラ、公選はがき

◆時の動き



駅前立ち宣伝行動する筆者

掲示板ポスター、確認団体ポスター、確認団体ビラなど、様々な取り組みを行い、都本部の中でも現職区議である私や、みずま雪絵さんは、候補者カーや確認団体カーにも乗り宣伝活動を行った。

また、各地で「ひとり街宣」と呼ばれる宣伝活動も行われていた。私たち一人ではないが独自の宣伝活動を実施しており、選対から要請される全都是一斉駅頭宣伝以外にも、新社会党北総支部は、ほぼ毎日、駅前に立ち宣伝活動を行った。

結果をどう見るか、マスメディアが選挙についてあまり取り上げない。取り上げたと思ったら、運動候補を「怖い」「批判だけ」などと勝手なイメージを押し付ける。また、選挙が終わった後になり、石丸候補が大きくバッシングされているが、これも選挙中にマスメディアが取り上げてこなかったことによる弊害であり、選挙が終わってから候補者の人となりを報道しても遅いのである。

こうしたマスメディアによる報道姿勢、SNSを活用し、自身のいいところだけを「切り取り」発信拡散すること、政策を「見ない」「聞かない」若者に多大な支持を受ける石丸候補の選挙戦術、公務と言いつつ政策を討論しない現職都知事の選挙戦術。もはや選挙は政策を闘わせるものでなく、イメージ戦略に成功したものが支持を受ける「人気投票」になってしまっているのではないか。

56名が立候補し、ポスター掲示板の大混乱、ふざけた政見放送、誤った内容を投票日当日に放送するテレビ番組、選挙終了後に叩かれる落選した候補者たち。今この日本の選挙は墮落した政治家、売名目的の候補者、SNSで極めて短時間で説明しないと政策を知ろうともしない有権者により、大きな危機に瀕している。

ここで私たちが

とるべき道は何か？

政策は間違っていない。その政策を訴えるために、人と人とのつながりを真摯につくっていくしかない。その方法は多様化してきているが、臆せず、新しい方法を取り入れていく勇氣と行動力が重要であると思う。

(ふくだ こういち)